

(家庭数配布)



平和週間の取り組みをしています。

今週いっぱい「平和週間」となっています。

- ① 戦争の悲惨さ、悲しみを知り、平和の大切さに気づき思いを深める。
- ② 現代の紛争地域における同世代の子どもたちが強いられている環境を知り、自分たちにできることを考える。

を目的として、第2次世界大戦時の写真を職員室前に掲示しています。写真を観ると、当時の教科書に「ヘイタイサン ススメ ススメ」の記述があったり、体育の授業は武器を使った戦いの訓練であったことなど、教育の中でも戦争を進めようとしていたことが分かります。また、戦争で親をなくしてしまった子どもたちの辛そうな顔からも、当時の国をあげての思想が、人々に悲しみしかもたらさなかったことが伝わります。

これらは、全く過去のものとなってしまったのでしょうか。各メディアでは、世界中の戦争・紛争の様子が連日報道され、かつての日本のような状況が未だに繰り返されている地域があります。やはり、まだまだ「不戦」の考えを広めていかなければならないことは確かです。この取り組みを通して、本校の子どもたちが、平和についてしっかり考えてくれることを望みます。



これらの写真の他、各学年で、平和や戦争に関するDVDも観ています。

なお、拡大した写真を裏面に掲載しています。この写真を、各ご家庭での話題のひとつに取り上げていただければと思います。

◇校長のつぶやきコーナー

恒例のつぶやきです。今回は、前号でも述べた「子どもたちにとって快適な環境を大人が用意してあげること、それが全て本当の意味で子どものためになるとは思えない。」について、やはりそうなんだと思えることがありました。あるネットニュースに次のような記事があったのです。

今、世間の問題となっている若者の離職率の高さ、その一因にブラック企業だけではなく、その正反対をいくホワイト企業も。ホワイト企業とは一般的に①給料が高い②福利厚生が充実③残業が少ない、等の企業を指すが、一方で①上司が若手社員をお客様のように扱い、もし失敗しても厳しい指導をしない②負荷のかかる仕事をさせない、等の企業もある。このような環境に逆に若者の方が愛想を尽かし、「この会社においても自分の成長はない。」と見切りをつけ、離職を決意する。

というものです。私は、上司からの圧力や仕事の厳しさに耐えかねて辞めていくばかりと思っていましたので、この記事を読んだ時は意外でした。つまり、若者の中にも厳しさを望んでいる人が一定数はいるということになります。そのような若者に対しては「厳しさこそ愛情」です。本人が望んでいるのですから。

私は、子どもたちにも同じようなことを思います。子どもたちが日々生活している中で、うまくいかないことや困ったことはあるものです。それらを全て大人が先回りをして、取り除いてあげることが本当の愛情でしょうか？けがやいじめは当然避けなければならないとは思いますが、状況を見極めながら、「これは自分自身の力で解決させた方がいい。」と思うことについては、勇気を持って手を放してみるのも、ひとつではないでしょうか。私もこれまで様々な保護者の方とお会いしてきましたが、「そこまで親が介入しなくてもいいんじゃないのかな。」と感ずることも、正直言っていました。過去に勤めていた学校でのことですが、子どものためといろいろと手を尽くそうとするお母さんに対し、「私ももう大きくなったんだから、好きなようにさせてよ。」と親子げんかになったという話を聞いたこともあります。

子どもたちにとっては“今”が最終目標ではありません。将来、大人になってからどんな人間になるのかが求められるわけで、そのために“今”を生きているのです。私たち大人は、その“今”を無駄にしないために、安易に“ホワイト企業”にはならないように心がけてもよいのではないのでしょうか。

